

授業コード	科目名	国際母子保健学			担当教員	島田友子、小林潤、タン・エイハイ
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	研 405	月 5 限、水 1 限	
1. 授業の概要						
<p>国際化の波は、病院にも波及し、生産年齢人口の外国人女性、その家族に出会うことが日常的になってきている。この科目では、日本語の理解が不十分な対象者に対してどう対応していけばよいか、英語と中国語という言語の視点から、妊産褥婦に病院内でおこりえるシチュエーションごとに、読み・聞き・話す・書く体験を通して国際的視野を培う。また、演習を通して、外国人妊産褥婦だけでなく、日本人妊産褥婦への対応を考察する機会になる。もう一方で、国際母子保健に関わる国際機関、政府関係機関、JICA、NGO の役割および看護・助産分野における国際協力のあり方について学習する。諸外国と日本との比較から、日本の現状と課題を理解していく。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の課題を持ち英語・中国語に親しめる。 2. 病院内での妊産褥婦への対応に必要な英語・中国語表現の修得ができる。 3. 異文化コミュニケーションを迫られた時に惑わない能力の養成ができる。 4. コミュニケーションの種類、方法について工夫することの必要性を理解できる。 5. 国際母子保健の基本的知識について理解する。 6. 諸外国における保健医療サービスや助産システムおよびケアの特徴を理解する。 7. 日本と諸外国との比較から、日本の母子保健を支える助産ケアのあり方と課題を考察できる。 						
3. 授業計画と内容						
<p>Chapter 1 Introduction この講義の進め方、内容・評価法などの説明、学習の仕方などについてオリエンテーション 諸外国の母子保健活動、海外在住日本人、在日外国人の母子保健 (島田)</p> <p>Chapter 2, 3 講師から見た外国での出産と日本の出産の現状について(ミニ講義) (タン・エイハイ) 妊婦健診、問診、検査に関するロールプレイなどを通して演習(英語・中国語) 振り返り</p> <p>Chapter 4 諸外国の母子保健活動、JICA、NGO の役割事前学習 (島田)</p> <p>Chapter 5-9 国際母子保健に関わる国際機関、政府関係機関、JICA、NGO の役割および看護・助産分野における国際協力のあり方について (小林)</p> <p>Chapter 10 振り返り 分娩期、育児期の演習事前学習</p> <p>Chapter 11.12 講師から見た外国での出産と日本の出産の現状について(ミニ講義) (タン・エイハイ) 分娩時に関するケア、ロールプレイなどを通して演習(英語・中国語) 振り返り</p> <p>Chapter 13.14 ミニ講義 (タン・エイハイ) 育児期、乳児健診に関するロールプレイなどを通して演習(英語・中国語) 振り返り</p> <p>Chapter 15 諸外国と日本との比較から、日本の現状と課題検討、まとめ (島田)</p>						
4. テキスト・参考文献						
我部山キヨ子編「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」第5版、2016.						

この他の参考図書は、随時紹介する。
5. 準備学習
講義に関する内容を予め参考書を読み予習する。
6. 成績評価の方法
・事前レポート(30%) 事後レポート(60%) 授業貢献度(10%) 合計 100点
7. 履修の条件
特になし
8. その他
講義場所は大学外で行う場合がある。事前に連絡します。

授業コード	科目名	母子の癒し援助論			担当教員	鶴巻陽子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	2		
1. 授業の概要						
<p>リラクゼーションの理論と実際を学び、助産実践の場でリラクゼーションテクニックを生かす。自然治癒力高め、心身の緊張をほぐすホリスティックケアとして、周産期に用いられる安楽法やリラクゼーション法（アロマ、タッチケア等）について学び、周産期の疼痛、不快緩和方法を習得する。東洋医学を用いた補完代替医療に関する母子への効果についても学習する。実技ではリラクゼーションを体感し、理解を深める。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. ホリスティックケアの概念を理解し、癒しの効果について体験する。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期にリラクゼーションテクニックを適切に実施する。 3. 助産援助に効果的な方法を選択する。 						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 授業の概要 学修の進め方 ベビーマッサージ理論と演習①（定岡）</p> <p>第2回 アロマセラピー ハーブ 理論・実践（具志堅）</p> <p>第3回 アロマセラピー マッサージ・実践を通しての学び 演習①（具志堅）</p> <p>第4回 マタニティーヨガ（又吉）</p> <p>第5回 アタッチメントベビーマッサージ理論と演習②（定岡）</p> <p>第6回 マタニティーヨガ演習（又吉）</p> <p>第7回 リラクゼーション・マッサージ（富川）</p> <p>第8回 アロマセラピー 親子で楽しくアロマの活用・演習②（大兼久）</p> <p>第9回 産後ヨガ（又吉）</p> <p>第10回 カラーセラピーワーク（与那嶺）</p> <p>第11回 鍼灸療法（加納）</p> <p>第12回～第13回 リラクゼーション・マッサージ（富川）身体を整える</p> <p>第14回 リラクゼーションの活用方法についてディスカッション</p> <p>第15回 まとめ</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>辻内敬子, 出産準備教室東洋医学を取り入れた妊婦さんの体づくりとセルフケア, 医歯薬出版, 2012</p> <p>助産学講座 3, 母子の健康科学, 医学書院, 2017</p> <p>無痛分娩を含めた産通緩和ケア, ペリネイタルケア, メディカ出版, 2016vol. 35</p>						
5. 準備学習						
準備はないが、講義後は、学生間で技術の効果の確認をすること。						
6. 成績評価の方法						
・技術演習への積極的な取り組み（50%） レポート（50%）						
7. 履修の条件 : 特になし						
8. その他 : オムニバス方式での授業である。授業日の詳細は授業時に説明する。						

授業コード	科目名	助産学研究			担当教員	島田友子、鶴巻陽子、小柳弘恵
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	研 405・2・19	月 5 限、水 1 限	
1. 授業の概要						
<p>1. 助産師教育での研究のねらいのひとつには、修了後、助産実践の向上のために、日常の助産実践のエビデンスを明らかにできることである。そのために文献を批判的に読み、物事を客観的・論理的・科学的にとらえ、分析できる能力を獲得する必要がある。さらに自分なりの学習方法を身につけ主体的に学習できることも重要である。そして専門職として研究実践ができる基盤づくりとしたい。そのために、研究の基礎的な理論を再学習していく。1 - 15回では、周産期に関連した文献検討を通じて、ケアのエビデンスや知見を得る。文献を実際にクリティークすることで、研究活動における文献の活用に直接的に役立て、文献を批判的に読むということについて理解を深める。研究の基礎的な理論としての量的研究、質的研究を再学習し、助産実践の改善・向上を図るための基礎学習としたい。研究方法では、研究のプロセスを理解し、研究計画書作成として、個人で助産領域の関心あるテーマを考え、研究方法をイメージし研究の可能性を考えていく。この学習を基礎として16 - 30回の助産学研究の実際では、受け持ちをした継続事例の助産過程を振り返り、助産実践上の問題点・課題を明確にし、成果を実践に役立てることを認識していく。事例研究は、複雑で多くの要因を含む過程を扱うわけだが、その全体を扱うことを強調する立場と、特定の部分を切り取って扱う場合がある。その程度は変わっても、事例研究においては、個別事例を具体的に研究しつつも、そこから一般性を抽出することが重要であるとし、そこに向けて研究的視点で考察を深めるプロセスについて学習する。</p>						
2. 到達目標						
<p>1) 周産期に関連した文献検討を通じて、ケアのエビデンスや知見を得る。 2) 研究の実際を通して、ケアのエビデンスや知見を得る。 3) 研究のプロセスをたどることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事例研究の意義と研究方法について理解する。 ② 文献クリティークの視点を述べることができる。 ③ 分娩期を中心とした助産実践を研究的視点で多角的に分析・解釈できる。 ④ 研究論文が作成できる。 <p>4) ケアの妥当性・課題を明確にできる。</p>						
3. 授業計画と内容						
第1回	オリエンテーション 科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法、課題、推薦図書、学習の準備、オフィスアワーの活用法等を理解する。論文作成にあたっての説明					
第2回～5回	文献検討 THE DOULA BOOK 多くの臨床研究データとともに紹介している周産期に関連した文献検討を通じて、ケアのエビデンスや知見を得る。					
第6回	研究のプロセス 助産領域における研究の目的と研究のプロセスの実際について					
第7回	事例報告論文計画書・抄録作成 計画書・抄録作成の方法 発表の仕方について					
第8回	発表の仕方について パワーポイントプレゼン資料の作り方					
第9回～10回	女性が主体的に新しい命を迎える出産環境や看護の探求として 「妊婦による出産施設・出産スタイルの選択」等の研究について研究の実際(量的・質的)と援助方法を知る。					
第11回～14回	文献検討					
第15回	事例報告論文計画書の作成と検討					
第16～28回	事例論文作成					

第 29、30 回 まとめ、ディスカッション、評価、全体の振り返り
4. テキスト・参考文献
我部山キヨ子他編「助産学概論 第5 版」(助産学講座1) (医学書院、2016年) この他の参考図書は、随時紹介する。
5. 準備学習
文献検討では、必ず文献を読み、課題を提出する。
6. 成績評価の方法
・論文 80% 文献検討、文献発表、授業に対する貢献度 20% 合計 100 点
7. 履修の条件：特になし 8. その他 3 月に成果を発表する。